

サラワク柔道訪問記

— 四年ぶり、八回目の柔道交流をクチンで実施 —

本協会では、一九九五年からサラワク州で熱帯雨林再生活動を行っており、二〇一一年から植林活動を通じた環境国際交流として、大学生や社会人ボランティアによる文化交流などの様々なプログラムも同時に推進しています。

植林活動への参加をきっかけに、サラワク州との柔道交流を始め、毎年地道な交流を継続されている、広島県廿日市市の中学教諭川本宏さんより、川本さんの柔道の教習子で、ロンドン・オリンピック六〇キロ級銀メダリストの平岡拓晃さんと共に、昨年一二月末から今年一月初めにかけてサラワク州クチンにおいて、八回目の柔道交流を行った際の訪問記をご投稿頂きましたので、ご紹介します。

はじめに

新型コロナウイルスの影響で、サラワクへの柔道指導の訪問が中断されていましたが、規制も解除されようやく再開することができました。今回で八回目の訪問になりました。

今回は、教え子のロンドン・オリンピック六〇キロ級銀メダルの平岡拓晃、私の長女とその後輩、私のチームのコーチの五人での訪問でした。ただ、平岡は勤務先の筑波大学に

提出した「マレーシアの柔道事情の調査」という企画書が認められ、一か月滞在することになっていました。

さらに、サラワク州が政府の要請で、柔道のコーチを探していたので平岡の後輩の五十嵐君を紹介したところ、審査も通過し正式採用になり、一年間サラワクの柔道強化のために指導に当たることになりました。彼も私たちが滞在中一緒に指導していきなりました。

今回もクアラランブル在住の高橋先生（ご夫妻にもサポートいただきました）が、サラワク柔道が確実にレベルアップされているのを実感しながら、全日程を終了し帰国しました。

快調にスタートと思いきや…

私たちは一二月二八日に、初めて福岡空港からシンガポールのチャンギ空港経由でクチンに入りました。

定刻通りに到着し、快調にスタートが切れると思いきや、スーツケースを見つけてターンテーブルから降ろすと、どうも動きが悪く、よく見るとタイヤの一つが破損していたのです。

いきなりショックを受けましたが、現地のニヤムさん、先行入りしている平岡と五十嵐君の出迎えて、気持ちも晴れました。久しぶりのニヤム

さんとの再会で、目頭が熱くなる思いでした。

平岡と五十嵐君は、すでに柔道指導をスタートしていて、ある程度英語も話せるので、ニヤムさんとも打ち解けている感じでした。

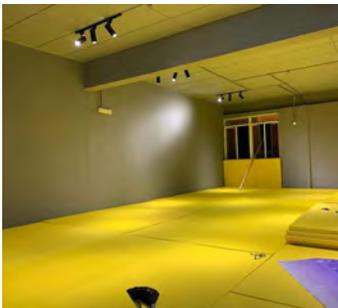
川本塾の道場を見学

私は、今回もう一つの訪問の目的がありました。コロナ禍で訪問が中断している間に、ニヤムさんから新しい道場を作る計画の連絡があり、その道場に「私の名前を使ってもいいか」という打診がありました。

私は軽い気持ちで「私の名前であればどうぞ」と答えていましたが、数か月たってラインでその道場や看板、Tシャツの写真が送られてきて、本当に私の名前を使ったものになっていました。



「川本塾」ロゴ入りTシャツ



内部の様子



セントーサの柔道場

しかも、数か月後「セカンドプレゼンツ」とまた新しい道場の写真、実際どうなっているのかわからないので、とにかく自分の目で見たいという思いがありました。

最初にできたのはクチン空港にほど近いセントーサというところで、二つ目はミリでした。日程の関係でミリの道場は見学できませんでしたが、開けばシブにも、もう一つ道場を作る予定ということだそうです。どの道場にもスポンサーの協力があるそうです。サラワクで柔道を広げようとする活動がすごく進んでいるのをうれしく思いました。



川本 宏
広島県廿日市市立七尾中学校教諭

柔道指導開始

今回はいつもより一日滞在が長いので、三回指導の機会がありました。練習場所もサラワク柔道のスポンサーの体育館に畳を敷いて行ったのでゆとりを持って指導に当たることができました。

一二月二九日の練習

最初の私の挨拶では、ブルートゥースでつなげることでできるスピーカーを持っていったので、スマホの翻訳アプリで英語、中国語、マレー語それぞれでアナウンスしたので、全員に理解してもらえたようでした。



挨拶をする筆者(左端)

この日はサラワク柔道の練習メニューで指導を進めました。基本的には私たちが練習相手になることが中心でした。一番驚いたことは、これまでは中学生以上ばかりのメンバーでしたが、キッズの人数がとも増えたことです。キッズの人数が増えるということは、レベルの底上げをするのに大変重要です。現地の方々の

地道な努力が、実を結び始めていることを実感しました。

この日にニヤムさんから聞いたのですが、来年クチンでマレーシアの日本という国体のような大会が開催されるということで、サラワク州から柔道だけでなく様々な種目でメダルを獲得してほしいという意向が出ているようで、五十嵐君がコーチに雇われたのもその関係があったからだと思います。

この話を聞いて平岡とサラワク柔道の強化についても検討しました。もちろんサラワクの意向を中心に強化になりますが、私たちがどれだけサポートできるか、これまでとは違う緊張感のある指導になつてきました。



指導する平岡さん(後列右)

一二月三〇・三十一日の練習

この日から三つのカテゴリーに分けて指導に当たることになりました。娘とその後輩でキッズ、私と私のチームのコーチでジュニアとシニア、平岡と五十嵐君で強化選手を担当し

ました。二〇日は寝技、三二日は立技の指導をそれぞれのレベルに応じて行いました。



強化選手への指導

キッズは楽しさの中にも礼儀やそれぞれの基本を中心に、ジュニアとシニアは柔道の技の原理と基本の形を中心に反復練習、強化選手は試合に向けての準備と、試合に使える、または対応できるテクニック等をわかりやすく指導し、それぞれのカテゴリーで充実した練習になりました。ニヤムさんからも「グッドトレーニング」と言ってもらえ、みんな喜んでる様子が随所にかがえました。



真剣な子供達

ただ、今後の試合で実績を上げていくためには、まだまだ課題があるのも事実です。今回の私たちの訪問

をきっかけに、専属コーチとして残る五十嵐君を中心に、さらにレベルアップしていくことを期待しています。そして、今後も継続的にサラワク柔道が繁栄していくことを祈っています。



サラワク柔道の発展に向け、熱気に満ちた指導と練習を実施



追伸

訪問中の何から何までの私たちのサポート、新しい道場の開設など、本当にうれしいことばかりでした。今回は強化選手のレベルアップのため、日本遠征の提案もさせていただきました。ぜひとも実現させたいと思います。サラワク柔道がマレーシアNO.1チームになれるよう、少しでもお手伝いできればと考えています。ただ、毎回思うのですが、私がこのような柔道指導に携われるのも、きっかけを作っていたいた森嶋先生をはじめ、日本マレーシア協会や現地の酒井様他、様々な方々のおかげで今回も貴重な体験をして帰国することができました。ありがとうございます。今後も体が続く限りサラワク柔道に関わっていこうと思います。

今回の訪問は、私にとって特別な思いを持つての訪問でした。前回、平岡と一緒に訪問して、帰国したとた

おわりに

平岡は、私たちが帰国した後、コタキナバル、クアラルンプールの道場も訪問して柔道指導を行いました。マレーシアの柔道事情の調査を基に、勤務先の筑波大学に報告して、マレーシアの柔道強化の一端を担ってくれるものと思います。